

≪今週号の主な内容≫

■先週・今週の報道発表

RPPC に関連する発表は、特にありません

■RPPC 事務局からのお知らせ

1. 循環資源技術説明会の開催について（ご案内）申込 9 月 2 日まで
2. NPO 法人庄内リサイクル産業情報センター発信メルマガ 8 月号のお知らせ

■リサイクルポートに関する最新の情報

1. 国交省の田中副大臣が就任会見で抱負
2. 菊地港湾局長が概算要求に向けた基本方針を語る
3. 港湾局、「港湾の施設の技術上の基準」の改訂方針をまとめ

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

◇RPPC 事務局からのお知らせ

1. 循環資源技術説明会の開催について（ご案内）

下記のとおり技術説明会を開催します。
詳細については、添付ファイルをご覧ください。

なお、技術説明会は国や港湾管理者等の担当者を対象としていますが、一般会員の方の参加も可能です。添付の参加申込書に所定事項をご記入の上、申し込みください。※申込期限 9 月 2 日（金）

日時：平成 28 年 9 月 12 日（月）13：30～16：30
場所：JMS アステールプラザ（広島市中区民文化センター）
4F 大会議室

2. NPO 法人庄内リサイクル産業情報センター発信メルマガ 7 月号のお知らせ

NPO 法人庄内リサイクル産業情報センターより、NPO 法人発信のメルマガ 8 月号が届きました。添付ファイルをご覧ください。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

◇リサイクルポートに関する最新の情報

1. 国交省の田中副大臣が就任会見で抱負

港湾や航空政策等を担務する田中良生国土交通副大臣は就任会見を行い、国際戦略港湾政策やクルーズ振興、首都圏空港の機能強化等を推進していきたいとの考えを示した。

田中副大臣は就任の抱負として、ストック効果を高める戦略的な社会資本整備等を推進していきたいとし、「国交省は『現場力』があ

る省。これまで蓄積してきた知見・ノウハウを最大限発揮できる環境をつくっていきたい」と語った。

港湾政策については、「コンテナ船、バルク船の大型化が世界的に進んでいる中で、わが国では大型船に対応できる港湾が限定されている。基幹航路の維持・拡大、輸送コストの増加等に対応するため、しっかりと戦略港湾政策を進めていく」と話した。国際コンテナ戦略港湾である阪神港・京浜港において集貨・創貨・競争力の強化の取組みを今後も進めていくことが重要であるとの考えを語ったほか、国際バルク戦略港湾においても、大型船舶による効率的な輸送を実現するため、「国際物流ターミナルの整備に取り組んでいきたい」とし、釧路港、小名浜港、徳山下松港等での整備を促進させることが重要であると話した。

【港湾空港タイムス】

.....

2. 菊地港湾局長が概算要求に向けた基本方針を語る

国土交通省の菊地身智雄港湾局長は8月18日に開催した専門紙との記者懇談会で、来年度予算概算要求や今後の重点施策について考えを語った。

このうち、災害対策関係では今年4月に発生した熊本地震において、港湾自体の大きな災害はなく、発災直後から救助活動、緊急物資輸送等の支援を実施することができた。また発生したガレキを専用コンテナにより海上輸送し、処分場まで輸送する対応も行うなど、災害時の物資輸送拠点として重要な役割を果たす港湾について理解が深まった、などと述べた。

このほか今年度から検討に着手した港湾の中長期政策については、来年度の間とりまとめに向け各界の意見を聞き、しっかりと腰を据えて議論していきたいと語った。

【港湾空港タイムス】

.....

3. 港湾局、「港湾の施設の技術上の基準」の改訂方針をまとめ

国土交通省港湾局は8月5日、港湾施設を建設、改良する際の基準・手引きとなる「港湾の施設の技術上の基準（港湾技術基準）」の改訂方針をとりまとめた。コンテナ船・クルーズ船の大型化への対応や、荷役作業の安全確保・効率化、設計法の見直し等といった10課題を挙げ、それぞれの課題に対応して改訂すべき34項目を示している。港湾局では同方針に基づき、今年度改訂案の作成を進め、29年度に改正省令の公布、30年度の施行を目指している。

現行の港湾技術基準は平成19年度に性能規定化や信頼設計法を導入し全面改訂しているが、その後減災技術の強化や老朽化対策、ICT活用、大型船対応等といった技術基準に対する改訂のニーズが顕在化してきたため、港湾局では26年度に有識者等で構成する「港湾技術基準のあり方検討委員会」を設置し、これまで基準のあり方について審議して来た。

【港湾空港タイムス】

////////////////////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：徳田 英司 新日鐵住金（株）

部会員：山崎 和宣 五洋建設（株）

木村 竜也 東京都

梅木 重光 （株）酒田港リサイクル産業センター

紫牟田 和隆 光和精鉱（株）

新谷 聡 りんかい日産建設（株）

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：本野、清水、菅木

URL：www.rppc.jp E-mail：rppc_jimukyoku@wave.or.jp

////////////////////////////////////

- 会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がございましたらご連絡下さい。開催案内等の情報をメルマガで配信致します。
- メルマガ配信先に変更がある場合、事務局までご連絡下さい。
- メルマガに関するご意見、ご要望がありましたらご連絡下さい。

平成28年 7月 20日

関係者 各位

リサイクルポート推進協議会

リサイクルポート推進協議会 循環資源技術説明会の開催について（ご案内）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜びを申し上げます。

さて、リサイクルポート推進協議会（RPPC）（※）では、港湾・空港等整備において、リサイクル製品（無機系循環資源）の活用を促進するため、循環資源利用促進部会を設置し、リサイクル製品の特徴や使用実績等をまとめた「リサイクル製品便覧」を作成し、普及・広報活動を行っています。

また、国土交通省港湾局は、平成27年12月に、「港湾・空港等整備におけるリサイクルガイドライン」を改訂し、港湾整備事業等においてリサイクル製品の利用促進を図ることとしております。

これらを背景として、リサイクルポート推進協議会では、国や港湾管理者等の港湾・空港等整備に携わる担当者を対象として、「循環資源技術説明会」を開催することといたしました。

最近のリサイクル製品技術、材料開発の状況、活用事例等を報告する機会として下記のとおり説明会を開催しますので、多数のご出席を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

※ リサイクルポート構想を推進するための官民共通のプラットフォームとして、民間団体や民間事業者、リサイクルポートに指定された港湾管理者と関連する地方自治体を会員とする任意団体。

記

1. 開催日時及び場所

日 時 : 平成28年 9月12日（月）13:30～16:30

※プログラムについては、別添資料を参照下さい。

場 所 : JMS アステールプラザ（広島市中区民文化センター）4F 大会議室

住 所 : 〒730-0812

広島市中区加古町4-17

TEL : 082-244-8000

2. 問合せ先

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団 もとの 本野、ちさき 清水、ちさき 菅木

TEL : 03-5408-8296 FAX : 03-5408-8741

E-mail : rppc_jimukyoku@wave.or.jp

平成28年度 第1回

リサイクルポート推進協議会 循環資源技術説明会プログラム案

リサイクルポート推進協議会
循環資源利用促進部会

日 時：平成28年 9月12日（月）13：30～16：30

会 場：JMS アステールプラザ（広島市中区民文化センター）4F 大会議室

【プログラム】	所用時間（分）
(1) ごあいさつ	(5)
リサイクルポート推進協議会 循環資源利用促進部会長 鉄鋼スラグ協会 技術部長 東 和彦	
(2) 鉄鋼スラグを用いた海域環境修復技術および地盤改良技術について	(30)
新日鐵住金の事例紹介（カルシア改質技術、エコガイアストーン）（仮称） 新日鐵住金(株) スラグ・セメント事業推進部市場開拓室	
(3) 鉄鋼スラグを用いた海域環境修復技術および地盤改良技術について	(25)
JFE の事例紹介（水和固化体、底質浄化技術）（仮称） JFEスチール(株) スラグ事業推進部	
(4) 港湾・空港工事における非鉄スラグ利用技術について（仮称）	(25)
日本鋳業協会 スラグ委員会	
(休 憩)	(15)
(5) 石炭灰活用について（仮称）	(25)
日本フライアッシュ協会	
(6) 溶融スラグ再資源化の現状について（仮称）	(25)
(一社)日本産業機械工業会	
(7)全体を通じた質疑	(30)
(閉 会)	

FAX送付先：リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団 もとの本野、ちさき清水、むぎき菅木

FAX : 03-5408-8741

リサイクルポート推進協議会 循環資源説明会 FAX申込書

【日時】

平成28年 9月12日(火)

13:30 ~ 16:30

【会場】

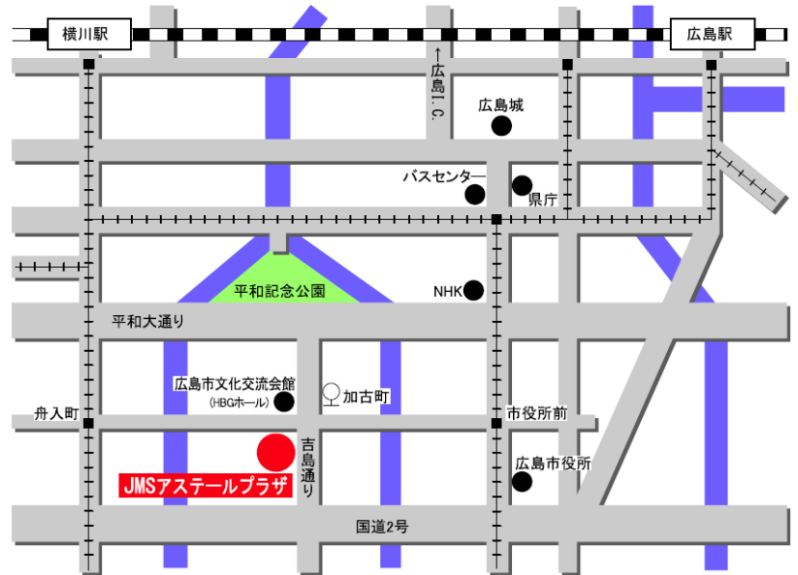
JMSアステールプラザ4F 大会議室
(広島市中区民文化センター)

〒730-0812

広島県広島市中区加古町 4-17

TEL : 082-244-8000

交通案内



【参加者記載欄】

下記に必要事項をご記入の上、**9月2日(金)までに**

FAX (03-5408-8741) またはメール (rppc_jimukyoku@wave.or.jp) にご返信下さい。

貴団体名		
(代表者)	参加者	ご所属・ご役職
		ふりがな 氏 名
参加者		ご所属・ご役職
		ふりがな 氏 名
		ご所属・ご役職
		ふりがな 氏 名
ご住所		
TEL		
FAX		

PORTTOWN MAGAZINE

<2016年8月号>

2016年8月18日配信

**このたびの熊本県および、大分県を震源とする地震により
被害を受けられた皆さま、その家族の方々に心よりお見舞い申し上げます**

みなさん、こんにちはメルマガ編集担当の齋藤です。今月も日本海側リサイクルポート、能代港、酒田港、姫川港、境港、各港の最新情報を皆さんにお伝えしていきたいと思えます。

それでは PORTTOWN MAGAZINE スタートです。

////// I N D E X //////////////////////////////////////

① 能代港ニュース

・丸紅など、秋田県が公募した秋田港と能代港での洋上風力発電で開発可能性調査を実施。

② 酒田港ニュース

・全国豊かな海づくり大会～やまがた～9月10日～11日開催。

③ 姫川港ニュース

・災害廃棄物が到着 リサイクルへ 糸魚川・姫川港 /新潟

④ 境港ニュース

・境港に 日本発着のクルーズ、9月まで10回運航

⑤ 編集後記

■ 能代港ニュース —————

○丸紅など、秋田県が公募した秋田港と能代港での洋上風力発電で開発可能性調査を実施。

丸紅は、東北電力の子会社で再生可能エネルギー発電を手掛ける東北自然エネルギーや関西電力、中部電力、秋田銀行、大林組などとともに、秋田県が公募した秋田港（秋田市）と能代港（同県能代市）での洋上風力発電事業の開発可能性調査を行う。共同実施をすることで各社が合意した。事業が可能と判断した後、建設段階に移行する。

秋田県が県内の再生可能エネルギーの拡大と産業振興を目的に、秋田港と能代港での洋上風力発電事業者を公募し、2015年2月に丸紅を選定した。丸紅は開発可能性を調べると同時に、2016年4月に特別目的会社「秋田洋上風力発電」を設立した。今回、秋田洋上風力発電に共同事業実施者が出資し、開発可能性を共同で調査することになった。

■ 酒田港ニュース —————

○全国豊かな海づくり大会～やまがた～9月10日～11日開催。

「森と川から海へとつなぐ 生命（いのち）のリレー」をテーマに、平成28年度に山形県で開催される「第36回全国豊かな海づくり大会～やまがた～」が平成28年9月10日～11日に行われます。

本大会を通して、豊かな漁場がもたらす特色ある水産業をはじめ、山形県の魅力を全国に発信するとともに、山形県水産業の振興や地域活性化に結び付く契機となるよう地元の皆様、関係機関・団体と一緒に取り組み、大会の成功に向けて、準備に万全を期してまいります。

<式典行事>

開催日 平成28年9月11日（日）午前
会場 酒田市民会館「希望ホール」

<海上歓迎・放流行事>

開催日 平成28年9月11日（日）午後
会場 鼠ヶ関港（鶴岡市）

第36回
 **全国豊かな海づくり大会～やまがた～**

—— 森と川から 海へとつなぐ 生命のリレー ——

平成 28 年 9 月 10 日・11 日

式典行事 酒田市民会館「希望ホール」

海上歓迎・放流行事 甌ヶ岡港 (鶴岡市)

○ < **第 36 回全国豊かな海づくり大会～やまがた～**
<□>
|| **9 月 10 日～9 月 11 日**

※詳細はホームページにて

http://yutakanaumi Yamagata36.jp/gaiyou/gaiyou_01.html

■ 姫川港ニ ュ ー ス

○ 災害廃棄物が到着 リサイクルへ 糸魚川・姫川港

熊本地震で発生した災害廃棄物の木くず約1000トンが25日、糸魚川市の姫川港に到着した。リサイクル処理をして、バイオマス燃料やセメント副原料として活用するため、明星セメント糸魚川工場に搬入された。

姫川港は、廃棄物などを広域流通させることで、資源として活用を進める「全国リサイクルポート推進協議会」に加盟。協議会は、自然災害などで発生した廃棄物処理を支援するD・Waste-Net（災害廃棄物処理支援ネットワーク）に参加しており、熊本地震の早期復興を支援するため、姫川港では木くずを受け入れた。

■ 境港ニ ュ ー ス

○境港に 日本発着のクルーズ、9月まで10回運航

境港（こう）（境港市）に7月28日、大型クルーズ船「コスタ・ビクトリア」（7万5000トン）が寄港した。運航するヨーロッパ最大手のコスタクルーズ社（イタリア）が企画した日本発着の日本海周遊クルーズで、9月まで10回連続で運航する。境港管理組合によると、日本発着の日本海周遊クルーズは初めてとみられるという。乗客1300人の大半は日本人で、下船後は出雲大社や皆生温泉、水木しげるロードなどの観光地を楽しんだ。

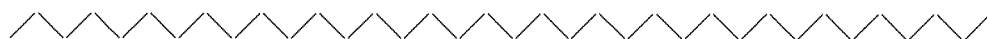
■ 編集後記

最後まで読んでいただきありがとうございます。

連日の猛暑、皆さまはどう過ごされておりますでしょうか？私も水分補給に余念のない毎日です。今年は全国的に記録的な猛暑となり、「睡眠」「涼しい場所での休息」や「マメな水分補給」が夏を健康的に乗りきる重要ポイントになります。リオデジャネイロで行われているオリンピック中継に寝不足の方も多いかもかもしれませんが、暑い夏を健康的に過ごして「金メダル」な夏にしていきたいですね。

それでは、次回の PORTTOWN MAGAZINE をお楽しみに。

※次回配信は 8 月 18 日になります。



PORTTOWN MAGAZINE

配信日 毎月 15 日



発行元

NPO 法人庄内リサイクル産業情報センター 担当：齋藤

〒998-0005 山形県酒田市宮海字南浜 1 番地 50

TEL:0234-31-7117 FAX:0234-33-2600

MAIL:norio@sakataport.co.jp

HP:http://www.shonai-recycle.jp/

<情報提供>

能代市商工港湾課、NPO 法人能代観光協会

糸魚川市商工農林水産課、糸魚川市観光協会

境港管理組合、境港市観光協会

